

行政評価シート（事務事業評価）		評価年度	26年度
事業名	認知症施策総合推進事業	担当課	保健課
細分化した事業名			

### 1 計画(PLAN):事務事業の計画的位置づけ

第6次長期総合計画での目的体系	基本方向	誰もが安心して暮らせるまちづくり	
	政策	地域の絆を深める福祉社会の実現	
	施策	高齢者福祉の充実	
関連する個別計画等	介護保険事業計画	根拠条例等	介護保険法

### 2 計画(PLAN):事務事業の概要

事業の目的	高齢者が認知症になっても安心して暮らせるまちづくりを行う。
事業の手段	認知症支援ネットワーク協議会の開催 徘徊SOSネットワーク協議会の開催 認知症地域支援推進員の配置 もの忘れ相談 医療機関、居宅介護支援事業所等との連携
事業の対象	認知症の方 認知症の方の家族 認知症の方を取り巻く地域、医療、福祉、行政関係者等

### 3 実施(DO):投入費用及び従事職員の推移(インプット=費用+作業)

		23年度	24年度	25年度
A	事業費 (千円)	6581	6190	5901
財源内訳	国・県支出金	6500	6158	5900
	その他(使用料・借入金ほか)			
	一般財源	81	32	1
B	担当職員数(職員E) (人)	0.68	0.53	0.53
C	人件費(平均人件費×E) (千円)	4636	3544	3440
D	総事業費(A+C) (千円)	11217	9734	9341
主な事業費用の説明		認知症地域支援推進員及び事務職員の賃金・社会保険料・研修会講師謝金、協議会委員の謝金、相談電話料		

注)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、23年度(6,819千円)、24年度(6,687千円)、25年度(6,491千円)を使用しています。

### 4 実施(DO):事業を数字で分析(アウトプット=事業量)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
活動指標	1 認知症相談件数	認知症相談件数(件)	145	185	178
	2				
	3				
妥当性		<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない			
上記活動指標と妥当性の説明	1	認知症地域支援推進員を設置し、認知症の相談(訪問、電話、来所)を行い、適切な医療・介護が受けられるように支援している。			
	2				
	3				

5 評価(CHECK): 事務事業評価 (アウトカム=成果・効果)

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			23年度	24年度	25年度
成果指標 もしくは まちづくり 指標	1	徘徊SOSネットワーク 登録状況	新規登録件数(件) 13 申請者数(通算)(件) 13 登録者数(年度末 件) 12	3 16 11	10 26 14
	2				
	3				
成果		<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない			
上記指標の妥当性と 成果の内容説明	1	初年度以降の登録件数は3件から10件と3倍以上になっている。徘徊SOSネットワークのシステムが、徐々に浸透してきている。			
	2				
	3				

事務事業総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成
----------	--

6 改善(ACTION): 今後の事務事業の展開

今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 拡大(コストを集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 一部改善(事務的な改善を実施する) <input type="checkbox"/> 全部改善(内容・手段・コスト・実施主体等の見直しが必要) <input type="checkbox"/> 縮小(規模・内容を縮小、又は他の事業と統合する) <input type="checkbox"/> 廃止(廃止の検討が必要)
事務事業の改善案	改善の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)
	26年度の改善計画(今後の事業展開説明) 現在行っている認知症に対するサービスを認知症の状態ごとに整理していく認知症ケアパスを作成し、蕪崎市に今後必要な施策を検討し、提案していく。
過去の改善経過	徘徊SOSネットワークがスムーズに運用できるように平成23年度は情報伝達訓練を行い、その反省を生かした情報伝達訓練を翌年平成24年度行っていった。また、平成25年度は実際の徘徊者役をたて、より実際に近い模擬訓練を行った。
課長所見	本人はもとより家族等をも支援できる認知症ケア体制の充実、また、医療並びに居宅介護支援事業所等との連携体制の強化は今後ますます重要な施策となってくる。そのためにも認知症地域支援推進員を適切に配置し、家族等への支援を的確・迅速に行うとともに、認知症支援ネットワーク、徘徊SOSネットワーク等を有効に利用し情報の共有化を図っていく必要がある。